



カバー写真：中川真人／撮影協力：魚津農場 味良寿園

魚津市加積地区にある小さな果樹園へ。
シナノゴールド、陽光、ふじ……。
こだわりのリンゴは、
知る人ぞ知る魚津の秋の味覚です。

未来のまちを考えよう

みんなの Uooooz!!
うおーず

湾岸道路をきっかけにつなぎ、 誇りが持てるまちをつくりたい

コロナの影響で、地域そのものが歪んでしまったと思うんです。集まって話をしなくちゃいけないのにできない、行きたいところにも行けない。当たり前だったことが、いとも簡単に打ち砕かれた4年間だったと感じています。

ただ、そんな状況を乗り越えたことで、よくなる部分も絶対にあるはず。私が期待しているのは、魚津水族館から経田にかけて整備が進んでいる湾岸道路。道沿いにお店をつくってもいいし、イベントをやってもいい、地域を活性化する方法をみんなで話し合っているところです。

魚津には海や漁港もあるし、お祭りだってある。ダメになっていくのをただ延命するという発想ではなく、そういう資源を磨いて、みんながこのまちを誇りにして生きられるような仕掛けをどんどんつくっていききたいんです。

湾岸道路をきっかけにコミュニケーションが生まれて、さらに地域と地域がつながっていく。経田って人のつながりが強いし、実現できるだけのパワーやポテンシャルがある。私はそれに賭けたいと思っています。



野村 博 (のむら・ひろし)

福祉事業所「コミカフェ もみの木」代表。経田地区振興協議会会長として、七夕祭をはじめ地域を盛り上げるべく活動。同協議会が令和5年度 魚津市表彰を受賞。

日々の活動をお届け

ともゆきがゆく!



5/23
国会訪問

野上浩太郎 参議院自民党国会対策委員長を訪問。地元振興策や議員活動についてのアドバイスをいただきました。



8/5
たてもん祭り

魚津の夏の風物詩「たてもん祭り」に参加しました。みんなで声を合わせて5トンのヤマが動いたときの一体感が最高です!



8/8
工場視察

県土整備農林水産委員会で、岡山県・広島県の農業や林業の取り組みを視察しました。写真は、バイオマス発電のための木材粉碎作業の様子。



8/17
出航セレモニー

魚津唯一の遠洋船(サンマ漁)、第八珠の浦丸の出航セレモニーに出席。激励の挨拶を行い、航海の安全と大漁を祈願しました。



10/8
経田地区ふれあい住民運動会

4年ぶりに開催された住民運動会に参加し、開会式でご挨拶。久しぶりにご近所さんたちの笑顔に出会うことができました。



10/16-20
ハンガリー視察

文教公安部会のメンバーとともにハンガリーへ。教育の取り組みや少子化対策、子育て支援の現状などを視察しました。

Uooooz!! 寺口ともゆき 県政報告 2023 autumn vol.1

富山県議会定例会で 当選後初めての質問!

みなさま、こんにちは!

県政報告第1号の発行にあたり、まずは寺口ともゆきに富山県議会議員という大役を与えてくださったことに深い感謝を申し上げます。

着任後半年あまりの間に、2回の県議会定例会を経験。9月には初めての一般質問の機会をいただき、緊張のなかで3項目13問の質問をしました。3つの項目とは、教育の課題、水産業の課題、そして私の生活圏である新川地域の課題です(質問の詳細は、ぜひ中面ページをご覧ください!)

簡単には解決できない課題ばかりですが、地域のみなさんの声を真摯に受け止め政策に反映することが、議員としての一丁目一番地であるとの思いをもって臨んでいく所存です。

さて、私を含めて今回初当選を果たした議員のうち、8名が同じ党派に所属しており、定期的に集まって情報交換や勉強会を行っています。同じ立場で話ができる同期というのは、何よりありがたい存在です。今後も、同僚議員や先輩議員とのつながりを活かして活動していきたいと考えています。

また、魚津市や富山県の魅力を発信していくことも議員としての大切な仕事。そうした考えのもと、本誌の構成についても検討を重ねました。

未来に誇れる地域をつくるために、精一杯頑張っておりますので、引き続きの叱咤激励をお願いいたします。



夏の終わりに息子と



魚津・新川の 魅力や情報を発信!



新川高等学校 学園祭



寺口 智之 てらぐちともゆき

1978年 富山県魚津市生まれ 富山県立魚津高等学校 明治学院大学経済学部 卒業
大学卒業後、写真スタジオ勤務を経てカメラマンとして活動。2011年の東日本大震災を機に魚津にUターン。魚津商工会議所に8年間勤務し、「魚津まつり」などのイベントや外郭団体事務を担当する。2020年に退所し、魚津市議会議員として活動。2023年、富山県議会議員に初当選。

SNSも
日々更新中!



teraguchitomoyuki2020

terra_0331

OFFICIAL WEBSITE <https://teraguchi.jp/>



寺口ともゆきの詳しいプロフィールをご紹介します！

TOMOYUKI'S HISTORY

1978 5月9日 富山県魚津市経田に生まれる



1985 魚津市立経田保育園卒業

1991 魚津市立経田小学校卒業
(児童会長/サッカー)

1994 魚津市立東部中学校卒業
(生徒会長/サッカー部)



1997 富山県立魚津高等学校卒業
(生徒会長/バスケットボール部)

小学校からサッカーに打ち込むが、生徒会との両立ができず中学ではベンチ要員。漫画『スラムダンク』の影響で高校ではバスケットボールを始める。

2001 明治学院大学経済学部卒業

(写真部/中学社会・高校地理歴史の教員免許を取得)
経済学を学びつつ教職を志すも、暗室で現像・印刷することが楽しすぎて写真の世界で生きていきたいと考え始める。

六本木スタジオ入社

2年半住み込みで撮影アシスタントとして従事。昔ながらの厳しい社風のなか、写真と社会人としての“いろは”を学ぶ。

2003 カメラマンアシスタントに

その後、フォトグラファー・中川真人氏に師事。芸能人の撮影や海外ロケも多数経験する。



2007 フリーランスのフォトグラファーに

ファッションよりも人間の内面を写すことに興味を持ち、俳優やミュージシャンのポートレート、舞台やライブ撮影などを手がける。

2011 生まれ故郷の魚津にUターン

3月、東京・九段下のスタジオで撮影中に東日本大震災が発生。6月に帰郷し、8月には「じゃんとこい魚津まつり」を撮影。

2012 魚津商工会議所 入所

会員管理や会報誌作成、イベントの企画・運営、中小企業相談所補助員などを務める。東京時代の経験や人脈を活かし、観光事業に取り組み魚津をPR。



2014 結婚

2018年には念願の子宝に恵まれる。ただいま子育て真っ最中！

2020 魚津市議会議員

まちづくりに深く関わりたいとの思いで商工会議所を退所し、魚津市議会議員選挙に立候補。トップ当選を果たす。



2023 富山県議会議員

魚津市のみならず広域的な連携が必要だと痛感し、富山県議会議員選挙に立候補。10人の同期議員と切磋琢磨しながら、地域のために奮闘中。

いじめ防止対策について

Q2 いじめの現状把握について、県の認識と市町村の認識に差異が見られたところであり、再調査が必要ではないか？



A 荻布教育長:各学校から適切に認知報告がなされ、県にも同様に報告されているものと理解している。ただ、いじめとしての報告はされていたものの、いじめの重大事態があった際に速やかに市長に報告されるところ、その報告がなされていないケースがあった。県教委からも市教委に対して注意喚起したところである。引き続き早期の適切な把握・対応を周知徹底してまいりたい。

Q3 今後、いじめの認知等が適切に行われるようになるための方策は？



A 新田知事:まずは、いじめと断定できないがその可能性のあるものも含めて、積極的な認知と報告が大切であると考えている。教育委員会においては、チームとしての支援体制の充実を図り、いじめの積極的認知と早期の解決に努めていただきたい。

「富山はいじめが少ない」はホント？

富山県は、児童生徒1000人当たりのいじめ認知件数が15.1名と、全国で2番目に少ない状況。これ自体は誇るべきことですが、実際はいじめが見逃され、報告が漏れている可能性を考えて質問しました。

不登校児童・生徒に対する課題について

Q1 誰ひとり取り残されない学びを保障するために、フリースクールや教育支援センター、学びの多様な学校など、さまざまな居場所の確保が必要と考えるが、その検討状況は？



A 荻布教育長:学校や教育支援センターのみならず、フリースクール等民間施設とも積極的に連携し、協力、補完することが重要であると考えている。「不登校児童生徒支援協議会」において、多様な学びの場のよりよい連携について協議するなど、各施設との連携・支援の強化に努めてきた。

教室以外の居場所づくりを

令和4年度において、不登校の児童・生徒は全国に29万人余りと、過去最高を記録しています。無理に「学校に通え」と言うのではなく、まずは居場所づくりと学びの保障が最も重要だと考えます。

教育

教職員の配置拡充について

Q4 正規教員、非正規教員ともに不足しているなか、教員の多忙化を解消するためには、職員の配置を充実させていく必要があると考えるが、どうか。



A 新田知事:本県では、教員が児童と向き合う時間を確保するため、教員の業務を支援する外部人材の活用を積極的に進めており、たとえばスクール・サポート・スタッフの配置拡充も予算に盛り込んだ。今後とも、教育委員会には外部人材の活用も含めた教員の働き方改革を進め、優秀な教員の確保に努めてもらいたい。

人員不足が問題です

不登校やいじめの課題においても、現場の人員不足が原因で起きているケースがあると感じます。大切なのは、まずは人員をしっかりと確保すること。外部人材の活用はもちろん、本来の教職員の配置を拡充し、諸課題に対応してもらいたいと考えます。

緊張しました…



新川子ども施設の建設について

Q7 新川子ども施設の建設にあたり、住民や利用者の意見を丁寧に拾い上げるとともに、さらに民間の知見を活かしていくべきと考えるが、所見を問う。



A 竹内地方創生局長:同施設の整備手法として採用するPFI-BTO方式では、事業者を設計・建設・運営の一括性能発注方式で公募し選定することから、広い範囲について民間の知見が活かされるものと考えている。今後は、基本設計のタイミングで住民参加型の意見交換会を開催するなど、住民の声のさらなる把握に努めたい。

新川子ども施設って？

子どもたちが雨や雪の日、猛暑の日でも思いっきり遊べる屋内型施設。昨今の大型施設建設に関する県民の不信感に対して真正面から取り組み、将来にわたって誇れる施設となることを期待します！



湾岸道路の建設について

Q6 魚津市経田地区と黒部市石田地区を結ぶ湾岸道路の建設に向け、工期短縮の方策など、どのように取り組んでいくのか。



A 市井土木部長:本事業は、約200mの長大橋となることに加え、魚津市側では約20軒の住宅等の移転、また黒部市側ではパークゴルフ場の移設を伴うものであり、多くの地権者や関係者の理解を得る必要があることから、工期を15年に設定している。国の予算配分が未定なため確定的には言えないが、工事施工に関しては、橋梁アプローチ部分を施工した後に行う橋梁本体工事を一部同時に進めるなどの方策が考えられる。

工期15年は長すぎる!?

地域住民の長年の願いである湾岸道路整備が、ようやく動き出しましたが、工期15年というのはさすがに長すぎると感じます。工期の短縮について、いろいろな方面から検討していきたいと考えています。

岩ガキのかご養殖事業の普及について

Q5 滑川の水産研究所では、3年前から岩ガキのかご養殖の研究を進めており、一定の成果が見えてきた。『『寿司といえば、富山』の岩ガキ』を目指すなど、かご養殖事業への支援をぜひお願いしたい。



A 津田農林水産部長:岩ガキ養殖は漁獲量が少ない夏期の収穫が可能のため、富山湾の夏を代表する魚介類となる可能性があると考えている。漁協とも連携し、養殖試験の実施範囲を広げるとともに、技術指導を行うなど、事業化を目指した取り組みを支援してまいりたい。

岩ガキは救世主になるか？

水産研究所での研究成果を見学し、確かな手ごたえをつかんでいる様子が見えました。漁獲量が徐々に減少し、厳しい状況にある水産業において、今後の起爆剤(または救世主)になることを期待しています。



地域活性化



水産業